

## 2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 1 月 5 日作成)

<b>小委員会名</b>	湿気小委員会	主 査 名：高田 暁 就任年月：2021 年 4 月
<b>所属本委員会 (所属運営委員会)</b>	環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：永田 明寛
<b>設 置 期 間</b>	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
<b>設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)</b>	<p>これまでの湿気小委員会における研究活動の成果を継承、また近年新たに生じた問題の解決へ向けて、研究の進展を図る。研究動向を把握、社会情勢に応じた学術的立場を堅持した研究課題の提起、若手研究者への啓発活動を推進する。</p> <p>初年度：各 WG の活動支援ならびに結果公表の支援、熱シンポジウムの準備。 2 年度：各 WG の活動支援ならびに熱シンポジウムのセッション実施 (の予定だったが、シンポジウムは 2021 年度に延期)。 3 年度：熱シンポジウムのセッション企画・実施ならびに各 WG の活動支援。 4 年度：熱シンポジウムの総括および各 WG の活動支援、研究成果の公表・普及啓発。</p>	
<b>委員構成 (委員名 (所属))</b>	委員公募の有無：なし	
	主査：高田暁 (神戸大学) 幹事：宇野朋子 (武庫川女子大学) 委員：青木哲 (岐阜工業高等専門学校)、安福勝 (近畿大学)、岩前篤 (近畿大学)、伊庭千恵美 (京都大学)、小椋大輔 (京都大学)、尾崎明仁 (九州大学)、岸本嘉彦 (大阪市立大学)、権藤尚 (鹿島建設)、齋藤宏昭 (足利大学)、永井久也 (三重大学)、本間義規 (国立保健医療科学院)、松岡大介 (ものづくり大学)	
<b>設置 WG (WG 名：目的)</b>	以下の 7 つの WG が設置されている。それぞれ、年間 4～6 回程度の開催予定 ①文化財の保存と活用のための熱湿気環境解 WG：文化財保護の温湿度環境の整理を行う。 ②湿気環境と健康 WG：湿度が人体健康性に与える影響を明確にする。 ③地域特性に応じた吸放湿性能の有効利用および評価手法 WG：吸放湿材の評価手法や予測手法の構築を行う。 ④建築全体の温湿度環境性能 WG：建築全体の熱環境性能の評価手法について検討する。 ⑤蒸暑地域における住宅の湿害対策 WG：蒸暑地域の住宅の湿害の実態を明らかにする。 ⑥壁面降雨量マップ WG：壁面降雨量の計算手法確立と国内の壁面降雨量マップを作成。 ⑦熱湿気計算と物性値 WG：数値計算の目的に応じた所要の精度、物性値の在り方を検討する。	
<b>2021 年度予算</b>	170,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
<b>委員会開催数</b>	4 回 (年度内計画を含む)
<b>刊行物 (シンポジウム資料等は除く)</b>	なし
<b>講習会</b>	なし
<b>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画</b>	1. 第 50 回熱シンポジウム 「建築熱環境を考える：これまでの 50 年とこれからの 50 年」 <div style="text-align: right;">参加者数 149 名</div>
<b>大会研究集会</b>	なし
<b>対外的意見表明・パブリックコメント等</b>	なし
<b>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</b>	1. 7 つの WG 活動を支援するとともに、各 WG の情報を小委員会で共有し、湿気研究の幅を広げている。 2. 第 50 回熱シンポジウムの 1 セッションを担当し、湿気研究の今後を議論した。
<b>委員会活動の問題点・課題</b>	1. 湿気研究の普及や研究の発展につながる出版物の整理を進めたい。 2. 若手研究者への啓発活動の推進が課題である。

## 2021 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 5px;">A</span> <span style="padding: 2px 5px;">B</span> <span style="padding: 2px 5px;">C</span> <span style="padding: 2px 5px;">D</span>
<b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回、各 WG からの話題提供を基盤として、湿気研究の大局をとらえるべく、活発な意見交換・議論を行ってきている。</li> <li>・ 第 50 回熱シンポジウムに向けて準備を行い、「これまでの湿気研究」の総括と研究発表 4 件を発表した。湿気の各分野から最新の研究成果が発表され、新たな研究につなげる議論が行われた。</li> <li>・ 湿気研究の普及や研究の発展につながる出版物の整理を進める必要がある。</li> <li>・ 若手研究者や大学院生を啓発する取り組みをさらに行う必要がある。</li> <li>・ オンラインで会議が定着し、委員の出席率が向上した。</li> </ul>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。